

令和5年度 第1回 学校運営協議会

1 日 時 令和5年5月17日（水）午前9時30分から午前11時まで

2 場 所 静岡県立伊豆の国特別支援学校 会議室

3 参加者

○学校運営協議会委員

若林 高至 様 なのはな相談室 室長
山田 芳治 様 社会福祉法人春風会 障がい統括施設長
中村 裕子 様 伊豆の国市菰山地区 民生委員・児童委員 主任児童委員
東方 慶 様 三島市手をつなぐ育成会 理事
山元 薫 様 静岡大学 教育学部 特別支援教育 准教授
川島 庸 様 伊豆の国特別支援学校 P T A会長

○教職員

校 長 松本 仁美 副 校 長 廣瀬かよ子 教 頭 井上みづほ
事 務 長 鈴木 健夫 小学部主事 渡邊 康子 中学部主事 水野 靖弘
高等部主事 岩谷 俊宏 教務課長 廣 和子

4 内 容

- (1)開会
- (2)校長挨拶
- (3)学校運営協議会委員任命
- (4)令和5年度学校経営計画等説明
学校運営協議会委員から感想や質疑・承認
- (5)みんなで話そう「やりがいを感じ、教職員が笑顔で子どもと向き合うために」
- (6)閉会

5 議事録

学校経営計画について

- 校長 ・三年目になる。二年間の実績を踏まえての成果と、これからの課題を見ていきたい。
- ・学校は目標が多くなりがち。シンプルに数値目標にするなど、教職員・保護者・地域にとって、わかりやすくつながりが分かる目標にしたい。
- ・教職員がやりがいを実感できるように、教職員一人一人を大切にする学校でありたい。
- 委員 ・学校はやることがたくさんある。多すぎると、教職員も児童生徒も、窮屈になってしまう。重点に力を入れると、他がそこについてくるという形がよい。
- 委員 ・保護者として、どのように学校とかかわってつながっていくか。どのように学校を盛り上げていけるかが具体的に見えてくるとよいと思う。
- 委員 ・いろいろやりたくなるが、重点はこれであると、見極める事が大事。

- 委員 ・ コロナ対応で苦勞した。反面、新しい考え方ややり方も学んだ。変わってきたものも、取り入れて大事にしたい。
- 委員 ・ 危機管理は地域と連携して整えて、子どもたちの安全を守ってほしい。
- 委員 ・ 命を守る学校を大切にしたい。児童生徒も教職員も大切にしていきたい。

「みんなで話そう」(板書記録写真参照)

学校より

- ・ 「やりがいを感じ、教職員が笑顔で子どもと向き合うために」について
- ・ 学校の課題と実情、取り組みの説明
- 多忙・残業者が多い・一生懸命な教職員・不調者も出ている・教職員不足

意見等

○教職員以外の力を活用していく

- ・ 清掃に、自動掃除機を活用している。
- ・ 地域の資源や人材や保護者を巻き込む。
- ・ 保護者を、行事や教材づくりのボランティアとして活用している学校がある。
- ・ 就労支援施設・医療センター・地域の学校も、コロナ禍で清掃や消毒、草取り、介護補助など、ボランティアを活用していた。
- ・ P T Aや保護者も「学校のために何ができるか」を考えたい。
- ・ 地域には「力になりたい・学校に行って何かできるか」と考えている方がたくさんいる。
- ・ 予算の問題もある。企業や大学と提携して協力を得てはどうか。

○学校や教職員の意識を変えていく。

- ・ 「教員が本来やるべき仕事は何か」の整理や明確化が必要。
- ・ 教員の働き方や年齢層も多様化している。個々の教員が「今の自分の仕事の重点(例:学校経営・授業力等)は何か」を意識することも必要。
- ・ 時間の使い方やタイムマネジメントを、大切な事と意識して共通理解する。

○組織としてできることや業務改善に取り組む

- ・ 仕事を一人が抱え込まず、どのような業務で残業しているのか等整理して、優先順位をつけたり、分散化したりすることが必要。
- ・ 効率的にシステム化するのにも労力があることが課題。
- ・ 仕事の項目は変わらなくても、内容をもっと簡素化していく。
- ・ 業務や活動に、必要な教職員人数を考えて、時間を生み出す。
- ・ 情報が職場で共有されていることも大事。
- ・ 学習において共通の支援ツールを使うことは、教育の質を保ちつつ専門性維持と働き方改革に効果的と思われる。
- ・ 児童生徒は障害も含め多様化している。能力を伸ばす時間と笑顔で楽しくかかわる時間の両方のバランスとメリハリが大事。

○保護者の意識を変えていくことも必要。

- ・保護者のニーズの高さや、成果をみえる形でほしいという願い。それに一生懸命に応えたい教員と言う関係も、業務過多につながる。
- ・教員は、保護者と子どもの成長を喜び合い、保護者に感謝された時などにやりがいや達成感を感じる。今は働く保護者も多く、教職員と保護者で話をする機会も少ないことも課題。

○教職員のやりがいとは…

- ・教員が「自分はなぜ教員になったか」を思い出し、「教員になってよかった」とやりがいを感じられる機会を生み出したい。
- ・企業で、数値目標が先行して単純に効率化だけ求めると、社員にやりがいもなくなり、個人のモチベーションが落ち、組織として衰退していくことがある。自分は福祉の分野にかかわり、「楽しいからやりたい」「楽しさを分け合うと、人が集まってくる」を感じた。教員は「楽しむ職人」であってほしい。
- ・学校現場での、成果重視や数値の評価には、違和感がある。その流れでやりがいを感じられるかが心配される。
- ・教員には、仕事が早い人やゆっくりの人など、様々だと思う。その中でも、「教員にとって子どもと笑顔で向き合うことが一番大事な事」と伝えたい。